OOYAMA MASAYUKI'S ONE POINT

「シーガー使って今日も快釣」

大山雅幸のワンポイントアドバイス

《日立沖タイラバのすすめ》

★日立沖で意外に効果的なのがタイラバで狙うアマダイ、通称「アマラバ」だ。大山さんの話ではエサ釣りに匹敵する釣果もめずらしくないという。

当地でのアマラバタックルを紹介しておこう。ヘッドはまず120グラムで様子を見て、潮が速いようなら150、200グラムと重くしていく。大山さんがおすすめするネクタイがエコギアの「熟成タイラバアクア・クワセフラップスリム」というワーム。アマダイにはイソメ系というわけだ。釣り方は底から3～4メートルまでを探れば十分、アタリがあったら軽く合わせを入れたほうがよいとのことだった。

▲シーガー製品の中では比較的張りのあるタイプ

▼シーガーグランドマックスFXなら3号で十分

▲シーガーPEX8は1.5～2号がおすすめ

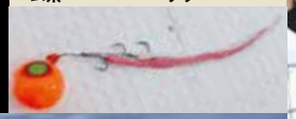
▲断続的な引き込みにアマダイと確信
▼今井さんの1尾目は35センチ弱

▲粕川さんはゲストに悩まされた
▼ホウボウもうれしいゲストではあるが

▲同船者のタイラバにも本命がヒット。他に35センチのマダイもきた

◉朝のうちはタイラバの独壇場だった

▼ヘッドは120グラム、ネクタイはワーム系



▶タイラバにきた2キロ級のイナダ

★大山さんは終日タイラバで35センチ級を釣り上げる

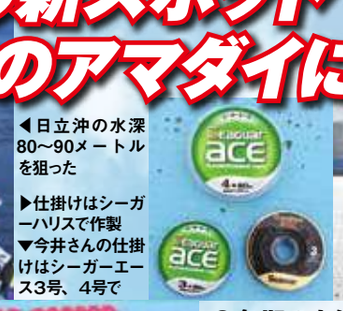
★今井さんが釣り上げた当日最大となる45センチ級の幅広アマダイ

Challenge #83
茨城県日立 久慈漁港出船

釣れる釣れるは未決第

シーガー スタッフ釣行会より

良型メイン、注目の新スポット 日立沖のアマダイにチャレンジ



◀日立沖の水深80～90メートルを狙った

▶仕掛けはシーガーハリスで作製
▼今井さんの仕掛けはシーガーエース3号、4号で

◉エサのホタルイカは船宿支給、オキアミは持参

◉冬期の人気魚、アマダイは相模湾や東京湾の釣り場が代表的だが、数年前から注目されているのが茨城県日立沖。今回はこの釣り場を知り尽くすシーガーフィールドテスター大山雅幸さんのアテンドで、今井寿美礼、粕川晃の両氏が初チャレンジする。

日立沖のアマダイの特徴は良型がそろうこと。20センチ級はほとんど交じらず、大半が30センチから上。すでに50センチ級も交じったとあっては、フアンとして一度はチャレンジしたい釣り場だ。

当地のアマダイ釣りを知り尽くすのが茨城県在住の大山雅幸さん。今回のシーガースタッフ釣行会ではアテンド役で、今井寿美礼さん、粕川晃さんは初めての挑戦となる。

乗船したのは日立久慈漁港の釣友丸。5時過ぎに出船し、40分ほど走って水深85メートル前後の釣り場に到着。

2人が用意した仕掛けは粕川さんがシーガーグランドマックスFX3号製。

「このハリスなら大型がきても安心ですからね」

一方の今井さんは、

「張りのあるシーガーエースを使います。念のため4号の仕掛けも作ってあります」と万全の態勢。

大山さんはと言えば、

「エサ釣りは2人にまかせて、今日はタイラバで狙ってみます」

暗いうちは望み薄と思えたが、すぐに大山さんがアタリをとらえた。上がってきたのは35センチ級のホウボウ。なんとこのあとにもホウボウを釣り、3度目のアタリで船中初となる35センチのアマダイまで釣り上げてしまった。

エサ釣りにアタリが出始めたのはようやく空が明るくなった7時ごろから。まず今井さんが30センチ級を釣ると、船中でもポツポツとアマダイが釣れ上がる。ただ、潮がほとんど流れていないせいで、いつもより全然アタリは少ないと大山さん。

移動ごとに散発的にアタリがくるなか、ついに今井さんが大きなアタリをとらえた。時折竿を絞り込む引きをいなしながら、取り込んだのは45センチの大型だった。

納竿の12時までに今井さんはもう1尾追加。一方の粕川さんはホウボウやムシガレイなどのゲストばかりで本命は型見ずに終わる。

この日は終日ポツポツの食いで盛り上がりはなかったものの、終わってみれば常連さんが7尾の釣果を上げ、日立沖の実力を見せつけた。

「相模湾スタイルで誘い続けたのが逆効果だったみたいです」と粕川さん。

「納得はしていませんので再チャレンジします」と今井さん。

「奥の深い釣り場ですし、大型のチャンスはこれからです」と言う大山さんの言葉でこの日の釣りを締めくくった。

当日の仕掛け

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎0282・82・6133

◉取材協力／茨城県日立久慈漁港　釣友丸 ☎0294・22・7436(詳細は巻末の情報欄参照)